



三鷹五中薬草園

開園式記念パンフレット

2025.12.05 版

三鷹五中薬草園の開園にあたり、御協力いただいた方々に対し感謝申し上げます。
また、末永く希少な薬草が維持できる場となりますよう見守っていただければ幸いです。
なお、この内容は2025年11月25日現在の内容で構成されています。

理科担当 白木 直博

三鷹五中薬草園

開園式記念パンフレット

2025.12.05 版

三鷹五中薬草園の背景

本校鷹南学園三鷹市立第五中学校（三鷹五中）は、かつて東洋一を誇る津村順天堂（現ツムラ株式会社）の薬用植物園があった場所にあり、周辺地域ではその名残と考えられる薬草が自生していることが知られています。そのため、地域の植生をいかした薬草園としての整備を計画しました。

残念ながら、本校も含め東洋一の薬草園であった当時の面影はほとんど目にすることはできませんが、薬草として栽培されていた数種類の植物は、少ないながらも各所で発見されています。

また、本校敷地一部では、津村順天堂の研究活動の一環として植物標本が保管され、牧野富太郎博士らによる植物分類学黎明期の学会誌「植物研究雑誌」（月刊）の発行元として学術研究の場となっていました。

この他に、津村研究所薬用植物園は、薬草の他に大正時代に明らかとなった武蔵野の植生を保全する場として整備されていたことが分かっています。牧野富太郎博士の著書「趣味の植物採集」※1では武蔵野の植物採取場所として紹介がされるほど豊かな環境であったことが伺えます。

このことを踏まえ、本校が担える地域の役割として、教育現場の中で学術的な地域文化を継承できる空間を目指し、次のコンセプトをまとめました。

※1 「趣味の植物採集」 昭和10年6月12日発行より

三鷹五中薬草園コンセプト

- ①かつての津村研究所薬用植物園を基にデザインする。
- ②消えゆく武蔵野の植生を保全する。
- ③学校教育活動と学術活動が協調できる場をめざす。
- ④施設の改修等で希少植物の移設が容易な庭園環境とする。（サステナブルプランの策定）

沿革

1924

・津村研究所が発足

1925

・津村薬用植物園を開設

1927

・植物研究雑誌（月刊）
を創刊

1935

・研究所創立10年記念
講演（牧野富太郎）

1938

津村薬用植物園規模拡大
東洋一（23万坪）

1945

財閥解体により敷地2万
坪に削減、以後閉園

・2025

三鷹五中薬草園開園
津村薬用植物園開設から
100年

植栽選定について

日本の薬草は、さまざまな用途で歴史的に生育されてきましたが、西洋医学の進歩とともに活用が限られ、その姿を見る機会は減り、現在では希少な植物となっています。かつては身近な薬草であったとしても、農地を手放し宅地化される近隣地域では、薬草であるかどうかにも気に留めることができなくなりつつあります。そうした状況の中で、武蔵野の各所で見られる希少な薬草を後世に残し、教育教材として活用を視野に、種の保存と地域の植生（フローラ）維持を目的に三鷹五中薬草園に導入する植物を選定します。

次の植物が三鷹五中薬草園で生育しています。

No.01 カラスビシャク *Pinellia ternata*

No.02 ムラサキ *Lithospermum erythrorhizon*

No.03 オニユリ *Lilium lancifolium* Thunb

No.04 ノカンゾウ *Hemerocallis fulva* var. *disticha*



(No.04 ノカンゾウ)

No.05 スイカズラ *Lonicera japonica*

No.06 ヨモギ *Artemisia indica* var. *maximowiczii*

No.07 ユキノシタ *Saxifraga stolonifera* Curtis

No.08 シソ *Perilla frutescens* (L.) Britton var. *crispa*

No.09 ドクダミ *Houttuynia cordata* Thunberg

No.10 タンポポ (予定)

三鷹五中薬草園

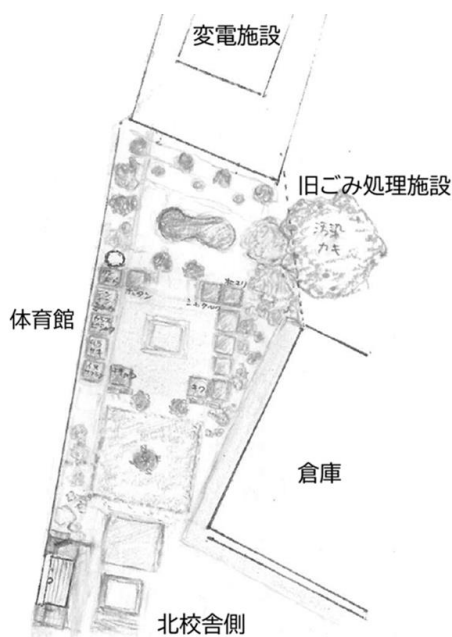
三鷹五中の薬草園は、北校舎と体育館と倉庫の間に位置し、プールに向かう植栽スペースとなる場所にあたります。変電施設や水道管などの構造物を妨げずに整備する限られた範囲を作庭しました。（イメージ図・平面計画図参照）

現在は、ボランティアによる整地作業を実施しており、多くの方の参加をお待ちしています。興味がありましたら三鷹五中花壇・庭づくり活動担当まで連絡ください。



薬草園付帯施設（設備）

- ・百葉箱（理科備品、高麗芝より 1.2～1.5m に設置予定）
- ・ストーンサークル（自作の方位モニュメント）
- ・薬草育成用花壇（自作のコドラート、2×4 木製）
- ・自動給水装置（蛇口に設置）
- ・散水装置類（スプリンクラー及び滴下ホース）
- ・池（理科備品、ポリプロピレン製）
- ・屋外用両面時計（倉庫側面に設置）
- ・側溝（滴下ホース埋設通路設置予定、大谷石製）



整備資金計画

東京都都市緑化基金では、東京都内の建物外構部の緑化、壁面緑化などの緑化工事や、公園や沿道、社会福祉施設や病院での花壇作り、小中学校等での緑化活動や環境教育への取り組みを行っている企業や団体、学校などに対し、助成金が交付されます。その中で、花壇・庭づくり活動支援事業として公共的な場所での花壇づくりや、野草・樹木の保護活動、小・中学校での緑化活動のスタートアップを支援するため、最大 3 年間にわたり活動費の一部を助成されます。

三鷹五中薬草園は、この採択を 2025 年 10 月に受け、校舎建造当時の廃材や隣接する旧ごみ処理施設の影響を受けうる土壌の全面改良を実施いたしました。農作物の生育に適した圃場環境を有しています。